

新任の先生方より

メッセージ

懐かしい空間

に包まれて

瀬端 正男

(五十一回卒)



憶が折に触れ懐かしく蘇ってまいります。

三十年以上も前、最も多感な時期に本校で学びました。本校は私にとりまして、忘れ難き母校であり、心の故郷です。当時は、歴史の重みを感じさせる風格のある校舎が聳えていました。遠い記憶の中で先ず蘇るのは、あの校舎の風景です。

紫西会報

自由溢れる雰囲気の中で、思う存分学ぶことができたことと記憶しています。当時の面影を残すものは少なくなりましたが、本校の空間に包まれていると、当時の記

今年は東日本大震災が、記憶の大きな部分を占めています。私自身、自然科学を中心に学んできましたが、正直これ程大きなエネルギーの解放は想定外でした。原発の事故についても、技術者にと少しの想像力があればと悔やまれてなりません。人類は様々な試練を乗り越えながら、この地球上で繁栄してきました。今回の大震災に関しても、冷静に分析し、謙虚に学ぶことによって今後に備える必要があると考えます。

大切に、日々考えてください。もし、あなたが本当の実力を身に付けたいならば、基本的な知識を確実に習得する努力に加えて、このことを実践することです。

本校が発展するということは、生徒諸君が伸びることであると捉えています。本校の益々の発展を祈らずにはられません。

下館一高に

赴任して

増淵 広道

(七十一回卒)



四月に下館一高に赴任し、一年が過ぎようとしています。高校卒業後十六年ぶりに母校に戻り、懐かしさに浸りながらも、伝統ある館一の教壇に立つ喜びと責任を感じながら、日々勤務してまいりました。

部室棟の位置が変わり、教室にパソコンやエアコンが入ったこと以外に、校舎に大きな変化はありませんが、現在の館一生の日々はとも忙しくなり、あっという間に時間が過ぎていくのではと思います。カレンダーには各教科の小テストの予定が毎日のように入っておりませんが、それに加えて、課外・補習・週末課題・面談・部活動等も生徒は行っています。なにより生徒のみなさんが、手を抜くことなくそれらに取り組んでいることに、館一生の力強さを感じています。

高校の三年間は、進路実現に向けて努力することはもちろんのこと、今しかできない経験を積むこともできる時期です。しかし、すべてが順風満帆にいくわけではありません。失敗したり悩んだり、壁にぶつかることもあるかと思っています。

でも、失敗から学ぶことは、成功から学ぶことよりも成長していく上では大切なのかなと思います。努力を惜しむことなく、仲間たちと切磋琢磨しながら、たくさ

んの経験を積み、自分を磨き続けてほしいと思います。まだまだ微力ながらも、みなさんの高校生活が充実した三年間となるよう、私も努力を重ねていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

下館一高に

赴任して

寒河江雄一郎



早いもので、下館一高に赴任してから一年が経とうとしています。赴任直後は新しい環境になかなか慣れず、苦労したこともありましたが、一生懸命勉強して

いる皆さんの姿、そして熱心に仕事をなさっている先生方の姿に感化され、一年間やってまいりました。

下館一高に赴任して持った印象は、「おとなしい」ということです。それは、性

格が温厚で落ち着いたという意味もあるのですが、勉強面においておとなしいという意味でもあります。私は教科が数学なので、正直、どこかの参考書などから疑問を持ってきた質問攻めされるのではないかと心配していたのですが、むしろ今は、こんなに質問をしに来なくて大丈夫なのだろうかとか心配になっています。皆さん、もっと勉強に対して貪欲になってください。与えられた課題だけで満足してはいけません。より難易度の高い問題に挑戦し、その問題を解決していくてください。何が何でも解いてやろうという気持ちで、大学受験にもつながるし、社会で生きていく上でも大切なことだと思います。

勉強だけではなく、部活動についても同じことがいえると思います。より高い目標を掲げ、普段の練習に+αを加えて、何がなんでも目標を達成させるんだという強い気持ちを持って欲しいと思います。

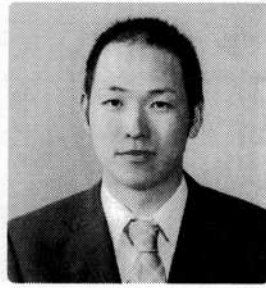
下館一高の生徒は、将来リーダーになるべき存在だ

と思います。自ら考え、自ら行動し、強いリーダーシップをとれる人間になってください。

最後に、皆さんが自身の高校三年間を充実したものにすることを心より期待しています。私も精一杯努力しますので、今後ともよろしくお願いいたします。

高校三年間で 最高の思い出を

片岡良祐



四月に下館一高に赴任して早いもので、一年が過ぎようとしています。教員になって六年目になり、初めての転勤で不安を抱きながら校門をくぐったことを覚えております。

まだまだ、力不足の私ではありますが、伝統ある下館一高で勤務できることに感謝して、精一杯努力して

いきたいと思っています。

さて、この一年間を私自身振り返ってみますと、生徒のみなさんの頑張る姿をたくさんみられた一年であったと思います。学習活動はもちろんのこと、特に七曜祭ではクラスの発表や模擬店、全校生徒による合唱など生徒のみなさんの学校行事における頑張りに驚かされました。私ももっと頑張らなければと再確認させられました。

高校生活を送るみなさんに私から伝えたいことは一つです。みなさんは、勉強・部活・学校行事と取り組むことがたくさんあるかと思いますが、ぜひとも高校生活を通してこれは頑張ったというものを作ってほしいと思います。私の場合は部活動(野球)でした。あんなに辛い練習に三年間耐えたのだから、あるとき甲子園を目指して野球を仲間と頑張ったのだから(結果的には、ベスト四までいき、あと二つ勝てば甲子園でしたが夢は叶いませんでした)、このくらいはなんてことないと思うことが、大学受験

の時でも、大学に入ってからもありました。高校時代に何かを頑張ったというその思い出は必ず、みなさんの人生の貴重な財産になるものです。高校三年間をやりあるものになるよう願っています。みなさん共に頑張らしましょう。どうぞよろしく願います。

下館一高に 赴任して 坂入純子



下館一高に赴任して、もうすぐ一年が経とうとしています。生徒数の多さやカリキュラムの違いなどに戸惑いながらも充実した日々を過ごすことができたのは、周りの先生方の助けや素晴らしい生徒たちに恵まれたおかげだと思っています。県西でも名高い進学校というだけあって、先生は熱心

な方が多く、生徒たちは優秀で自信に満ち溢れ、落着いた学校生活を送っている人が大半です。学習だけでなく、部活動やその他の活動でも活躍をしていることが、その自信に繋がっているのだと思います。

そんな皆さんに、これから身につけて欲しいことが一つあります。それは、

“活かす力”です。皆さんは、今までに学校生活や友人、家族、地域の方々との関わりなどを通して多種多様なツール(知識と情報)を得てきたはずですが、皆さんは膨大な量のツールを持ちながら、ごく一部のツールしか使っていないのではないですか?必要に応じて、関係するツールを活用することができれば、足りないツールを補充してやればよいだけなので無駄な労力を使わなくて済みますし、とんでもない失敗をすることもないでしょう。ツールを使いこなすには、ある程度練習が必要かもしれません。最初のうちは、うまく活用できずに失敗するかもしれませんが、失敗を恐れずに

何度もトライすれば、徐々に“活かす力”が身につくと思います。小さな失敗を繰り返して、大きな成功を掴んでください。

最後に、皆さんがより良い高校生活が送れるように尽力したいと思っておりますので、これからもよろしく願います。

下館一高に 赴任して 大月 忍



四月にこの歴史ある伝統校の下館一高に赴任してきました。まず驚いたことは広い敷地に風情漂う校舎のつくり、そして勉強ができる最適の環境が整っていることです。今まで様々な学校に勤務して参りましたが、このような学校は初めてです。このような環境の中で学べる生徒のみなさんは大変幸

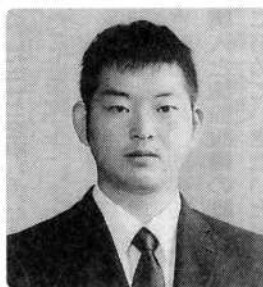
せなことです。廊下ですれ違ふときのあいさつや、教室で見る生徒達の顔にもとても明るさがあり、そして落ち着きがあります。まさに「人間も環境が変わると大きく変わる」ということだと思っています。放課後もグラウンドや体育館などでは各運動部の生徒達が汗を流し、文化部の生徒もそれぞれの分野で研究や創作に取り組んでいる姿をみると私自身も刺激を受けることが多々あります。

すばらしい環境のもと、勉強と部活動を両立している多くの生徒のみなさんが必ずや自分たちの目標を達成してくれるものと確信します。微力ではありますがみなさんの手助けになるよう私自身も努力していきたいと思っております。よろしく願います。



下館一高に 赴任して

鈴木拓馬



このたびご縁がありまして、九月より常勤講師として勤めさせていただいています。

私は下館出身なので、下館一高という、地元で一番の進学校というイメージがあり、そんな学校で勤務できることを誇りに思うと同時に、その責任を感じながら日々教壇に立っています。

さて、高校生となると自分の進路を決める上で、いくつかの大きな選択を迫られると思います。後悔の無いように選択したと思っても、どちらかを選ぶ以上「あっちを選んでおけば良かった」という後悔は少なからずでてきます。

すには、自分が納得するまで考えなければなりません。そして、迷いが大きければその後悔は大きくなります。そのなかで経験は選択を選ぶ上でとても参考になります。そこで皆さんに、いろいろな事に挑戦して欲しいと思います。そして得た成功や失敗は、自分の経験となつて、いずれは自信へとつながっていきます。

人生を大きく変える選択はそう多くありません。そのときに自信をもって選ぶことができるよう応援しています。

最後になりましたが、皆さんの人生に関われたことに感謝するとともに、楽しい学校生活が送れるように努力したいと思ひますので、よろしく願ひします。

下館一高に 赴任して

宮本悠里

下館一高に赴任して一年が経過しました。休み時間や授業で友達とワイワイ生かしている皆さんを見ると、最近まで自分もそうしてい



ましたが、とてもうらやましく思えます。

この一年間は初めて経験することが多く、驚きや発見の連続でした。しかし、社会人になって、社会のことを何も知らなかった自分に気づき、恥ずかしくなりました。学生の際は部活に明け暮れ、経験に乏しかったのです。もちろん部活から得たものは大きく、今の自分の糧になっているのですが、様々な分野に目を向け、色々なことをしておけばよかったと思っています。

一高に来て、初めてバレーボールという競技に携わることになりました。バレーボールにだけは苦手意識を持っていたので、自分になが出来るのか分かりませんでした。しかし不安とばかり言っていられないので、試合を見たり本を買ったり、時には部員に相手し

てもらったりとやってみました。今では下手ながらもチームに入って一緒にバレーしたいとまで思っています。何かに挑戦する時には必ず不安や心配があると思いますが、しかしそこを乗り越えようと、新たな発見や自信、人生が豊かになるような経験がたくさん得られます。そう考えただけでもなんだかワクワクしてきませんか。これから私も頑張りますので、皆さんも失敗を恐れずチャレンジし続けてほしいです。

下館一高に 赴任して

佐藤純子
(五十九回卒)



早いもので、わが母校に赴任して八ヶ月が過ぎました。およそ三〇年ぶりに校舎に入り「格技場現在の旧体育館も、若い力の像も健

在だ！」と思いました。そして館高のシンボルだった、少し黄色がかったレンガ色のL字型の旧校舎の解体工事の風景を、通学の水戸線の窓から眺めていたことも鮮やかに甦ってきました。

本校では図書館と事務室を兼務しています。生徒の皆さんの穏やかで素直な雰囲気を感じながら仕事をしています。

勉強も部活も充実して忙しい毎日を過ごしている皆さんに、館高の卒業生としてひと言お伝えしたいと思っています。

自分の意識のアンテナを高くして、できるだけ多くの物事を見て、聞いて、感じてほしいと思います。そこには当然わからないこともたくさんあるでしょう。その「わからない」ことを大事にしてください。そこが自分を伸ばす原点になるからです。勉強が忙しくて時間が無いと言わずに、立ち止まって考え調べる心の余裕を持ってください。時間は自分でつくるものです。具体的には、その時々で優先順位を決めていくといい

と思います。

自ら問題を解決することの経験を積み上げ、自身の知識の引き出しを充実させて行っていくのだ。

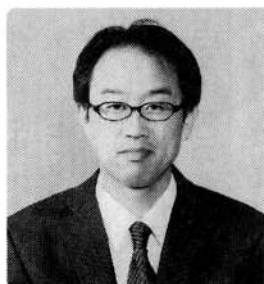
出合いの記念に皆さんに詩をご紹介します。茨木のリ子さんの『いちど見たもの』です。

この詩には「いちど見たものを忘れないでいよう」という言葉が三度繰り返されています。これから生きる若い人々へのエールだと思っています。図書館の文学の書架にあるのでぜひ読んでみて下さい。

これから館高と一緒に歩めることを嬉しく思います。今後もよろしく願ひします。

下館一高に 赴任して

深谷 充



水戸商業から下館一高に

赴任して、まもなく一年が過ぎようとしています。赴任することがきまった時は、学生時代に通学することがかなわなかった憧れの下館一高に通動できる喜びと、事務職として初めての進学校勤務にプレッシャーを感じたことを覚えています。

物品購入や施設設備の維持管理を担当する私から見た下館一高の特徴は、用紙の使用量が非常に多いことです。用紙が無駄になっ

いないことは進学状況でも明らかで、これは素直で勤勉な生徒達と指導熱心な先生方ならではの特徵だと思っています。また、部活動も盛んで、ずいぶん遅くまで練習しています。今夏の節電の際に外灯の点灯時間を短くしたことを申し訳なく思ったことを覚えています。

一生懸命頑張っている生徒や先生の教育環境を向上させるため、効果的な物品購入と施設設備の維持管理に努めていきたいと思っています。これからもうどうぞよろしく願っています。

平成二十三年度

職員異動

一、退職者

校長 宮本 節 主任
教諭(体育) 飯村 権一

教諭(国語) 清水 順子 主任
実習教諭 小田部つや子 副技師

主任栄養係長 宮川 幸子
主事 谷中 里佳

技術員 廣瀬 誠 校長
嘱託員 高橋 優子 教頭

二、転出者 柴山 希一 教諭
教頭 (竹園高校へ)

教頭 袖山 博 教諭
教諭(社会) 篠崎 憲二

教諭(数学) 廣瀬 浩克 常勤講師
教諭(理科) (石下紫峰高校へ)

教諭(理科) 岩木 孝夫 常勤講師
教諭(理科) (笠間高校へ)

教諭(体育) 磯山 稔 実習助手
常勤講師(数学) 杉山 周

養護助教諭 佐藤 孝 係長
非常勤講師(英語)

柳橋 晃代

伊東 史隆

(協和養護へ)

松本 敏秀

(下館工業へ)

鈴木 真理

(結城養護へ)

原 篤範

(明野高校より)

瀬端 正男

(下館工業より)

増淵 広道

(総和高校より)

片岡 良祐

(筑波高校より)

寒河江 雄一郎

(岩瀬高校より)

大月 忍

(総和高校より)

宮本 悠里

上野 光子

鈴木 拓馬

坂入 純子

(明野高校より)

佐藤 純子

(真壁高校より)

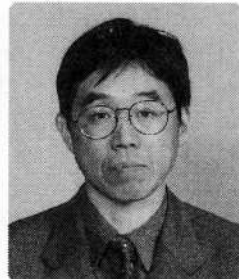
深谷 充

(水戸商業より)

下館一高の進路指導の現状

進路指導部長 鯨 雅之

(五十二回卒)



今年度の入試について

昨年より参加大学・短大数は十七大学増加し、八二八校(昨年八一校)と過去最高となった。センター試験志願者数は、五五八、九八四人(昨年五五三、三六八人)と、

昨年に比べ五、六一六人(前年比一〇一・〇%)増加した。内訳をみると、現役生志願者数が、昨年の四四〇、一四八人から四四二、四二一人と、

二七三人増加し、既卒生志願者数も昨年の二〇六、六五三人から二一〇、二二一人と三、五五八人増加した。

高等学校等新規卒業生が、一、〇六五、五八七人(昨年一、〇七〇、五八五人)と昨年に比べ四、九九八人(前年比九、九・五%)減少したにもか

わらず、現役生のセンター試験志願者数は約二、〇〇〇人増加している。この結果、センター試験導入以降上昇を続けている現役生センター試験志願率は四一・五%(昨年四一・一%)と過去最高となった。現役生のセンター志願率の上昇は、不況の影響からここ二年ほど高校生の就職環境が厳しく、大学進学層が拡大していることも要因の一つであらう。

二〇〇二年度から始まった成績開示希望者は、昨年より六、七五五人増えて四一七、七八六人となり、志願者全体の七四・七%(昨年七四・三%)を占めている。

本試験の受験者数は、外国語ベースで五二〇、三九六人(昨年五一三、二七一人)となり、志願者に対する受験率は九三・一%(昨年九二・八%)であった。リスニング受験者は五一三、五七六人(昨年五〇六、八八八人)で受験率は志願者の九一・九%(昨

本校生(平成二十三年三月卒業)の進路状況

年九一・六%)であった。
河合塾 平成二十三年実施
大学入試センター試験 総
合コメント より 引用

伸び悩んだ生徒が昨年度より少し多く見られたことも原因であったと思われるが、AOや指定校、一般と推薦での合格が多い年でした。内訳等は別表を参照して下さい。センター試験が不調に終わった生徒が国公立後期日程まで毎日学校に出向き必死に勉強している姿が印象に残ったが、試験の前日に震災に遭い、受験できなかったのは悲運としかいいようがありません。現役生では、国公立の数は前年の一割減でありましたが、東京外国語大学英文科・お茶の水女子大学や筑波大学に十二名の合格を出すことができました。また、早稲田大学に四名・慶応大学に二名の合格が出ています。また、過年度卒では筑波大学医学部(医学科)、九州大学、早稲田大学五名、慶応大学二名と難関大学にも多く合